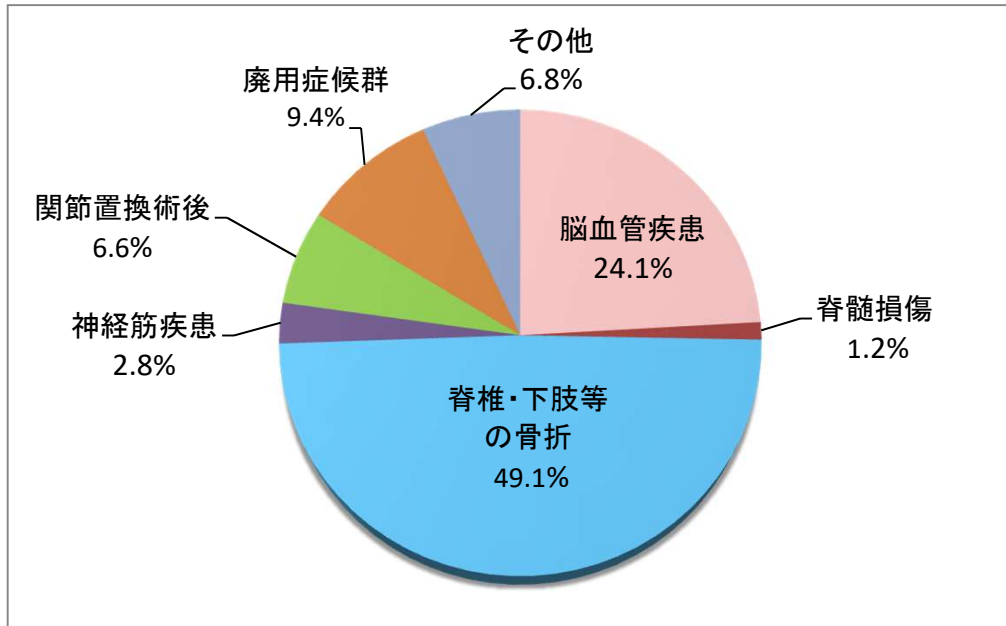
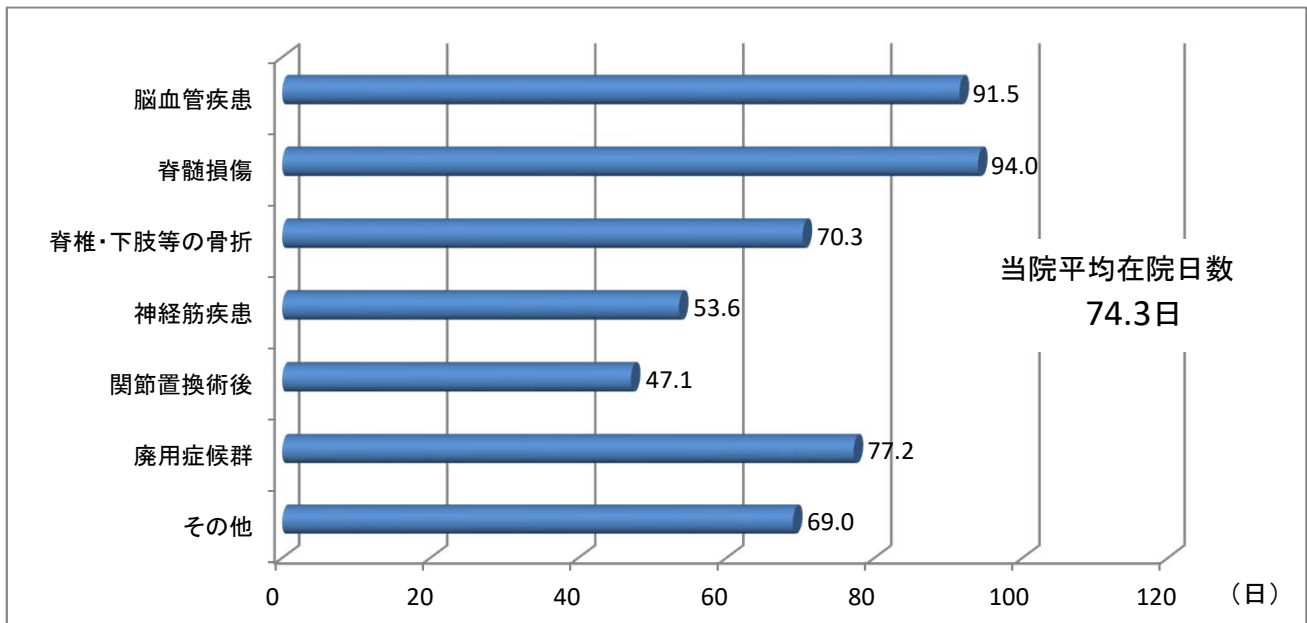


1-II 退院患者

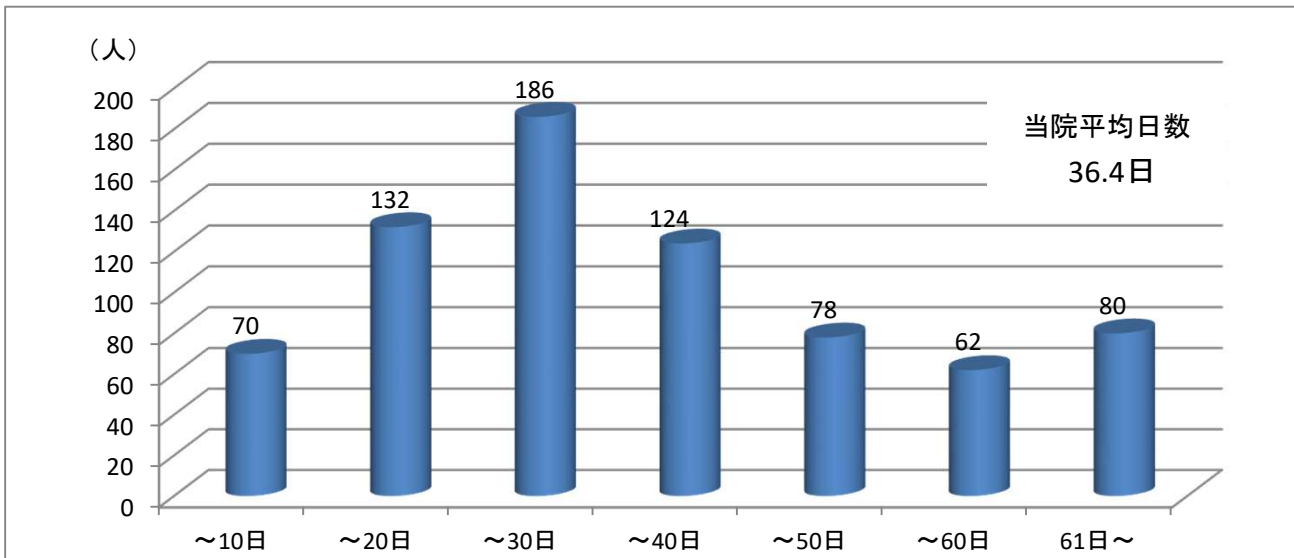
① 疾患区分別患者割合 (n=747)



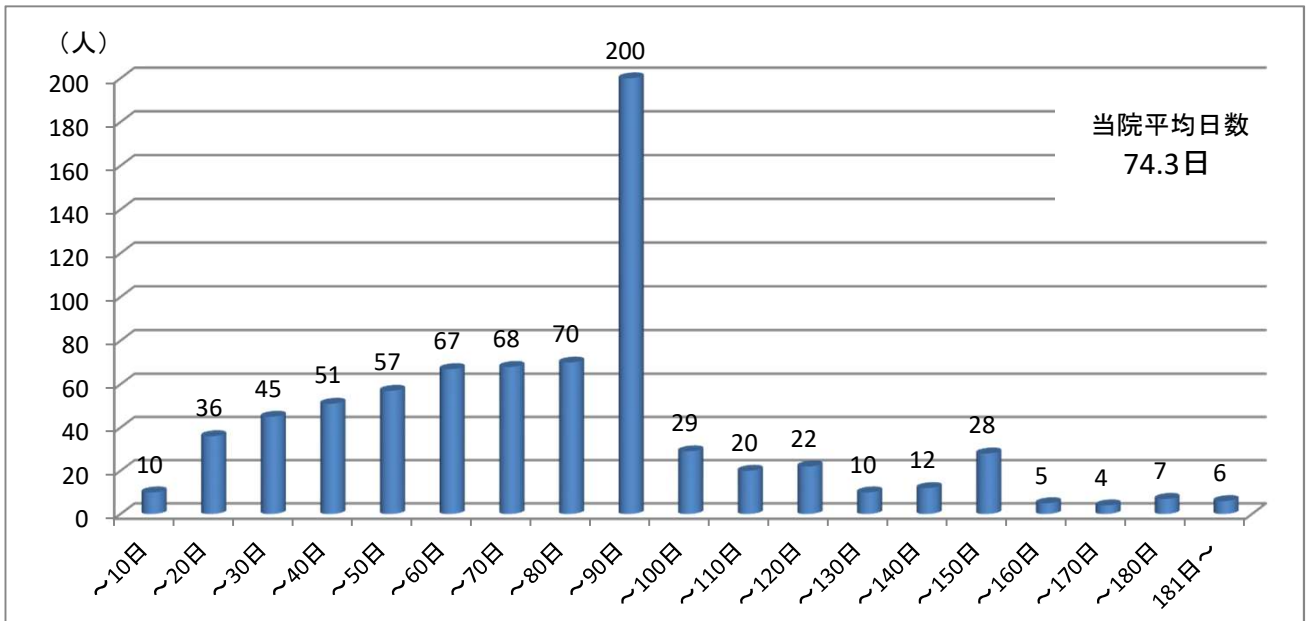
② 疾患区分別平均在院日数 (n=747)



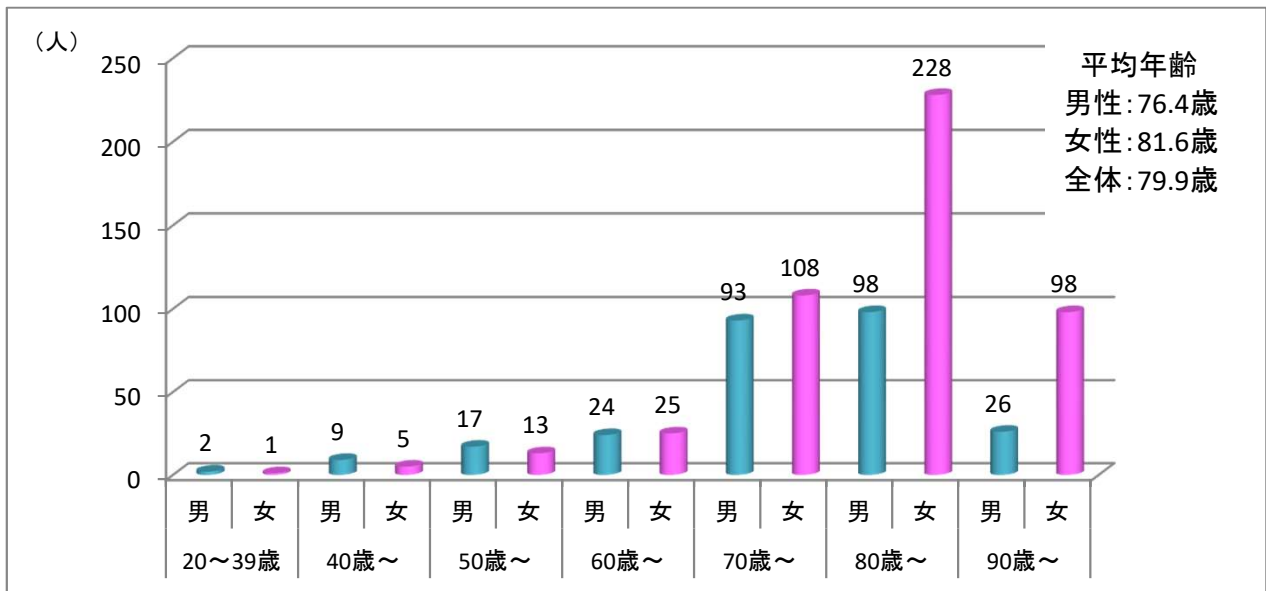
③ 発症～初回入院までの期間 (n=732) ※ 同一疾患・再入院を除く



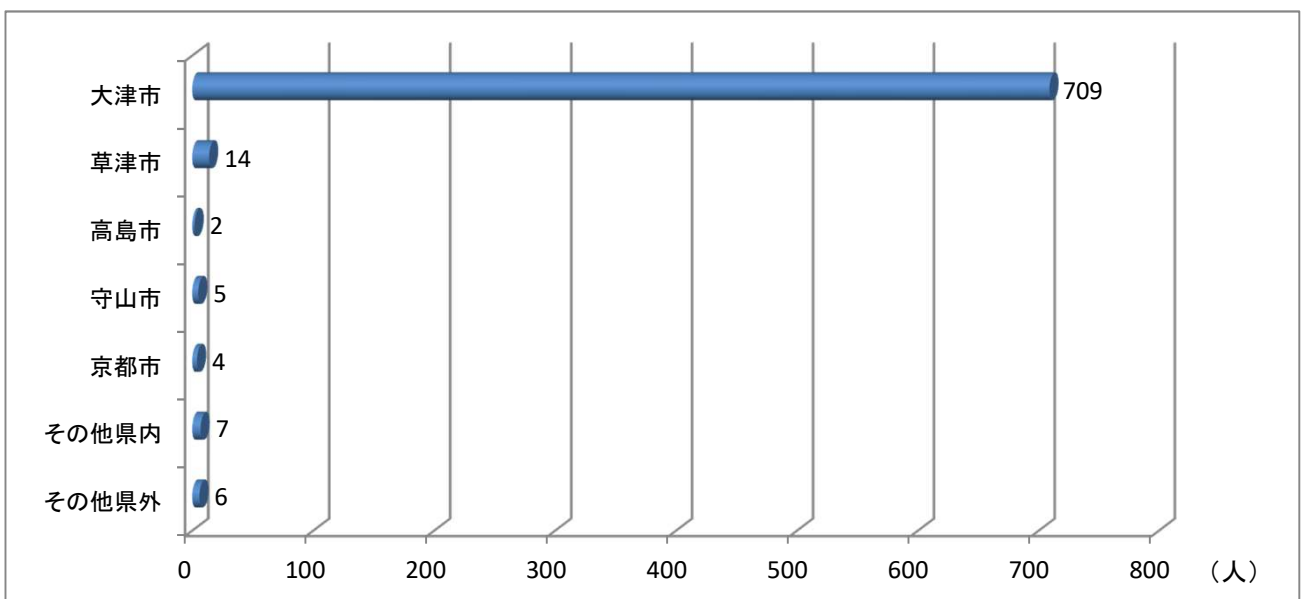
④ 在院日数 (n=747)



⑤ 年齢・性別構成 (n=747)

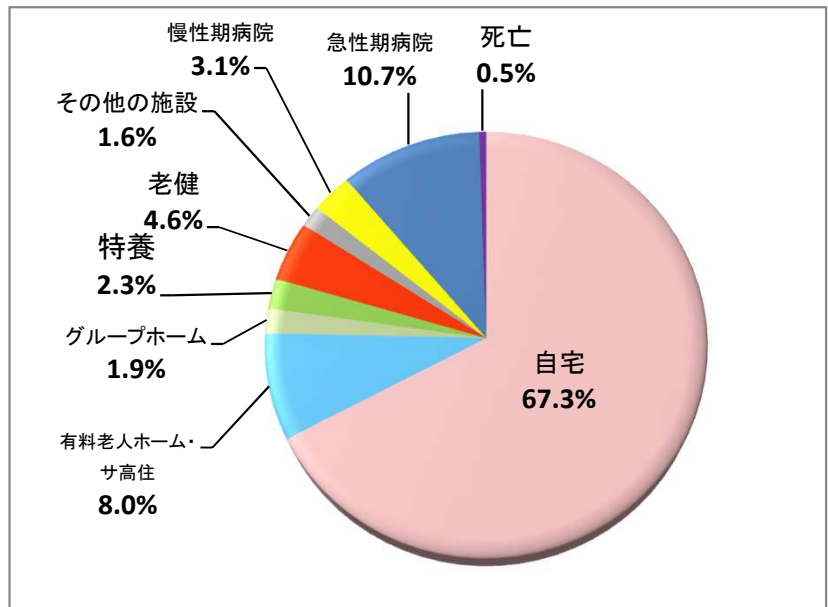


⑥ 患者住所 (n=747)

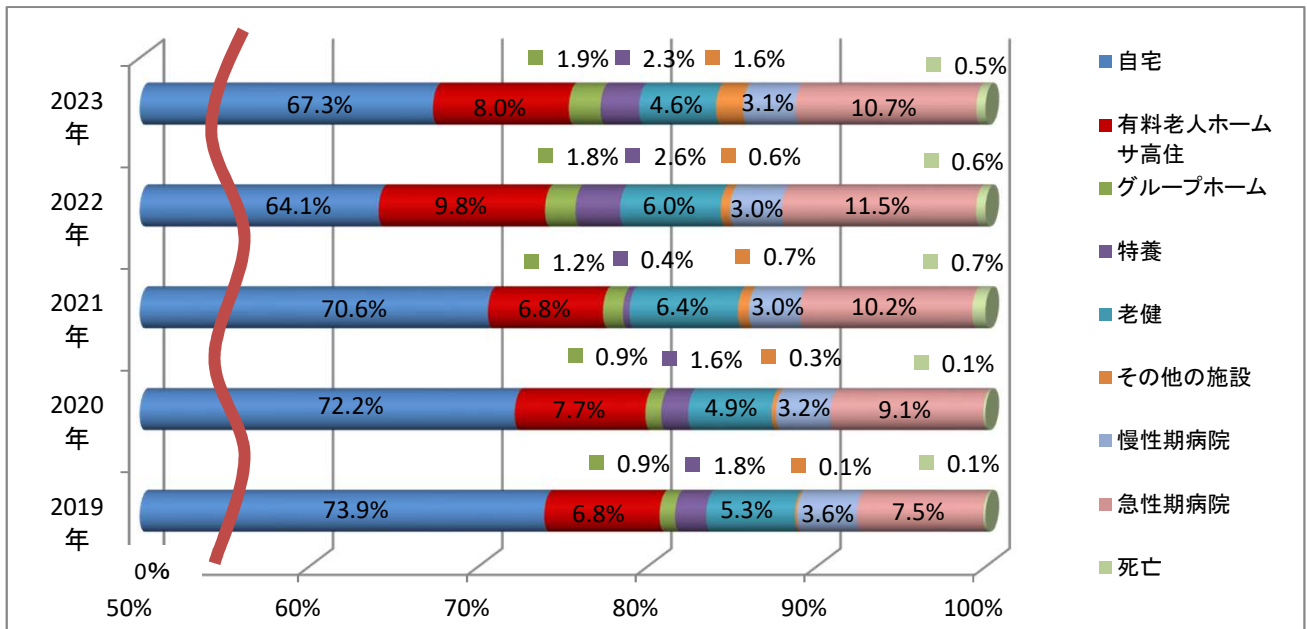


⑦ 最終退院先 (n=747)

自宅と居宅系施設を併せた退院の割合は79.5%でした。



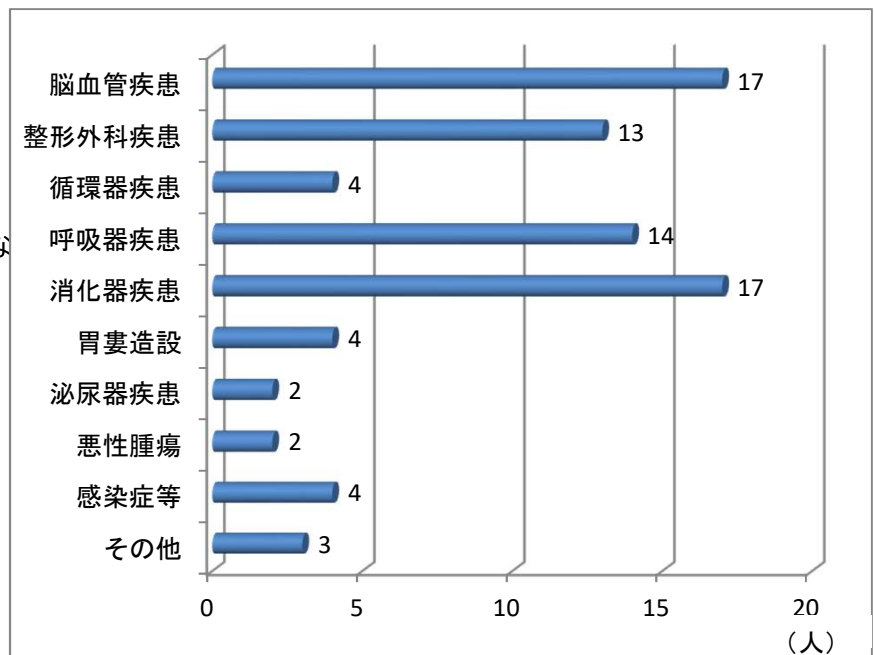
⑧ 最終退院先・年別 (2019年～2023年)



⑨ 他医療機関への治療目的での転院理由

対象患者 (n=80)

重篤な合併症の発症等によりリハビリテーションの継続が困難、あるいは専門的な治療・検査が必要な場合には、急性期病院（原則、紹介元病院）に転院し専門的な治療を受けていただいています。2023年には、80件の方が急性期病院に転院されました。急性期病院の治療が終了し、リハビリテーションが可能となりましたら、当院へ再入院していただけます。



⑩ リハビリテーション実績指数

リハビリテーション実績指数とは、FIM得点の改善度を、患者の入棟時の状態および在院日数を踏まえて指数化したものです。

以下の方法により算出します。

$$\text{実績指数} = \frac{\sum (\text{退棟時のFIM運動項目の得点} - \text{入棟時のFIM運動項目の得点})}{\sum (\text{各患者の入棟時から退棟時までの日数} \div \text{患者の入棟時の状態に応じた算定上限日数})}$$

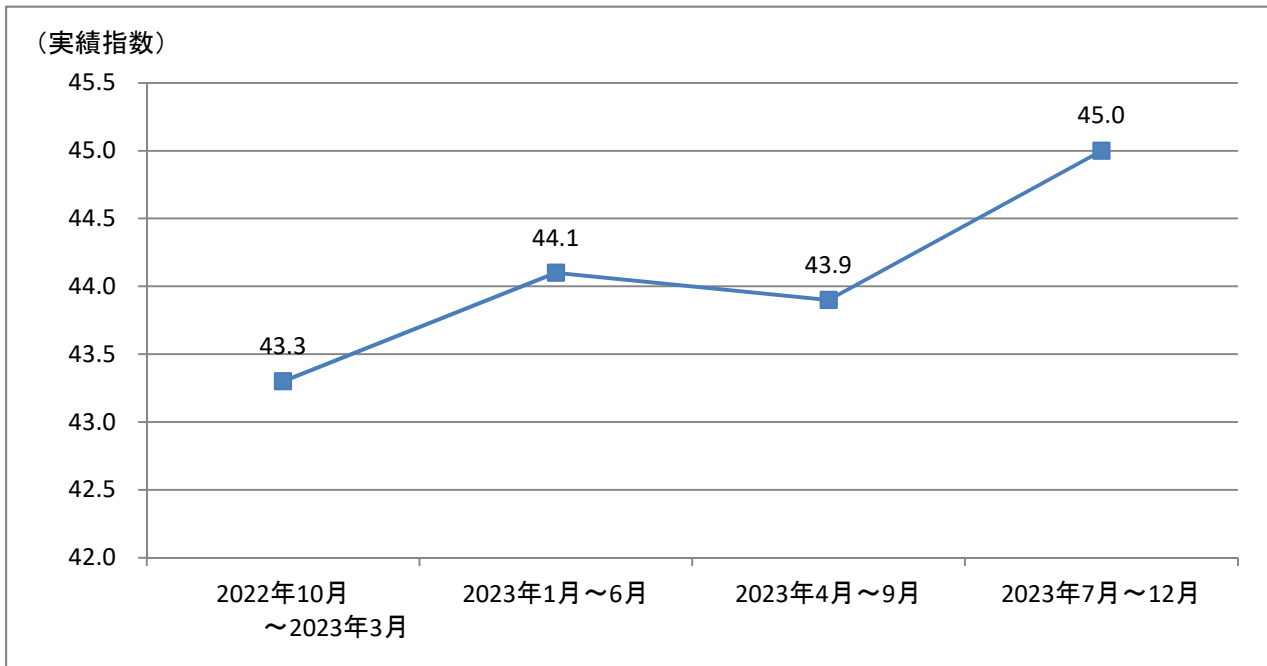
厚生労働省の定めた基準では、この実績指数が「27以上」であれば、一定の基準以上のリハビリテーションを提供していると判断されます。

また、2020年度の診療報酬改定以降

「回復期リハビリテーション入院料1」では、実績指数は「40以上」

「回復期リハビリテーション入院料3」では、実績指数は「35以上」

であることが要件となりました。



回復期リハビリテーション病棟入院料の疾患区分別にもリハビリテーション実績指数を算出いたしました。

